

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都新宿区北新宿 2-4-11
園名	アスク北新宿保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

【世界を知ろう】 世界の国名を英語で覚えよう どんな国旗があるかな？調べてみよう。

<テーマの設定理由>

来年度よりバイリンガル保育園になることに伴い、英語や外国籍職員と触れる機会が増えた。外国への興味関心が高まり、世界の国名や国旗を覚えることで、国旗の意味を知り伝統やローカルフードなど知りたいという意欲を育て、グローバルの視点が持てるようにしていく。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回ネイティブの講師と一緒に他国の文化に直接触れる機会を持ち、子どもたちが主体的に探究活動を行えるようにした。子どもたちの興味関心より問いかけや内容を考え、次回に向け柔軟に色々な活動を取り入れるようにした。

11月 アルゼンチンの国旗の色や場所について世界地図で探し他国に興味を持つ。

12月：星条旗について学ぶ。星の数やストライプ、色や形を知る。

1月：世界の国旗を見ながら、ひとりひとりが自由に国旗を作ってみる。

2月：フィリピンや南アフリカについて知る。オリジナルの国旗をクラスみんなで作ってみよう。

3月 クラスのみんなで作った国旗について、講師の質問に英語で答えて説明してみる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・公文の地球儀→世界地図との違いを立体的に視覚で確認し日本の位置を知り、世界への興味を広げていく
- ・世界地図→地球儀との比較
- ・国旗カード→国旗を見てそのデザインからその国の国旗の由来などに興味を持つ。
- ・国旗塗り絵→自由にデザインして自分だけの国旗作りをする。
- ・動物カード→自分たちで作った国旗からさらにイメージを広げ住んでいる動物を想像して話し合う。
- ・乗り物カード→日本とほかの国の場所を地球儀で探し、どんな乗り物で行こうか想像して話し合う。

4.探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：

日本とアメリカは世界地図のどの場所にあるかな？地球儀でアメリカを探してみよう？日本とどっちが大きいかな？アメリカの国旗は何色が使われているかな？あなたが作った国旗の国はどんな国？地球儀上のどこにフィリピンと南アフリカがあるか探してみよう。こすもす組でみんなでひとつの国旗を作ろう。みんなが作った旗の国は地球のどこにあったらいいと思う？日本はどこだっけ？みんなが作った国は日本からどうやって行こうか何に乗っていく？など、他国の国旗に興味を持つきっかけや、自分たち国旗を作り紹介をしていく問いかけをするようにした。

探究活動の様子：

英語講師からの問いかけに、自分たちが分かることや考えたことを発言する姿が見られた。小人数のグループに分かれた際には、国旗の色やマーク、様々な国旗を比べた際の違いや共通点について気付いたことを発言し合う姿があった。世界の国旗について知りながら、自分たちで国や国旗を想像して描くことを楽しんだ。自分で描いた国旗の色や形、シンボルとなるマークについて子どもたち同士で話す機会を作り、キャストの時には、英語講師に自分が分かる英語（主に色）で説明することが出来ていた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

3歳児は国旗や国について初めて知る子どもが多かったが、想像していたよりも国旗や国に興味を持って話を聞く姿が見られた。まずは日本の国旗や地図上での場所を知り、他国の国旗や日本からの距離など、日本以外にも国があり、日本との違いについて知る機会になった。英語講師の説明だけでは理解しきれないことも多く、保育者からの説明を受けて理解を深める姿が多かったが、色や形など、自分たちが分かる範囲で英語で答えようとする姿が見られた。国旗を通して子どもたちが得られる単語が多くあることや、自分で作った国旗を英語で発表する機会を通して、英語を身近に感じる機会や英語を話す事の自信に繋がると感じた。

【4 歳児実施分】

問いを考える：世界地図の中で日本はどこ？世界の国旗はどんな色？アメリカの国旗には何がある？みんなが考える国には何がある？みんなが考えた国の食べ物は何？みんなが考えた国は地球儀のどこにある？日本からどれくらい離れてる？何に乗って行きたい？飛行機は英語でなんていうのか聞いてみようか。カナダの国旗はどれ？レッドとイエローのある国は？あなたのお名前は？英語で言ってみよう。

探究活動の様子：

積極的に英語を使って講師に話しかける姿があり、間違いを恐れず、色やものの名前を英語で言うことを楽しんでいました。地球儀や世界地図を見ながら、友だちどうして会話がはずみ、色や場所などについて、英語も交えて色々な想像を膨らませていた。国旗を自分たちで作ることで、それを説明することへの強いモチベーションが育まれていた。少人数のグループで行うことで、発言の機会をひとりひとりに十分に取ることができ、子どもたちの満足感を感じることができた。地球儀や世界地図、イラストカードで具体的な距離や色、場所を知ること、英単語とその意味をより鮮やかに記憶することができていた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

思った以上に、英語を話してみたい、英語の先生と話したいという子どもたちの強い気持ちがあった。世界の国旗を通して、色や国名を英語で言うことで、言えることに自信や自尊心を感じている姿があった。講師からの質問に英語で答える機会が与えられると、積極的に手を挙げていた。また自分たちで作ったものは保育者の想像以上にモチベーションに直結することがわかった。自分で作った国旗に関しては、とても詳細に説明したがる姿があり、それに関する英語もほかの単語に比べて深く記憶に残っていた。保育者がそれに興味を示し、質問などで会話を広げ、英語の楽しさや新しい英単語への興味を引き出すきっかけを作るようにした。講師だけでなく、一緒に参加する保育者が楽しんでいる姿を見ることで、英語の楽しさを講師、保育者、子どもたちで共有できた。

【5歳児実施分】

問いを考える：日本とアメリカ、その他の国の場所や大きさ、形はどうか？日本とアメリカの食べ物やスポーツ伝統はなにか？カナダの国旗の模様は何か？アメリカの国旗は何色が使われているか？星条旗の星の数はいくつ？"みんなが考えた国にいてほしい動物は？どんな食べものがあるか？地球儀上のどこにフィリピンと南アフリカがあるか探してみよう。日本と南アフリカのどっちが広いかな？さくら組みんなで協力し合いひとつの国旗を作ろうと話し合いをした。「この旗のここを描いたのは誰？」「カナダの国旗はどれ？」「グリーンとイエローのある国は？」

探究活動の様子：

世界地図上で様々な国の場所について興味を持って、探す姿が見られた。日本やアメリカの食べものについても自分の知っていることを積極的に発言する姿が見られた。キャストの中で教えてもらった国名を覚えている子が多かったが、文化や食べ物については悩む姿があり、友だち同士で相談していた。アメリカ国旗について学ぶ機会を持ち、星の数やストライプの本数を知り、国旗への興味が深まっていた。アメリカ国旗について学びつつ、自分で作るオリジナルの国旗の良さを感じていた。完成したお互いの国旗や選んだ動物を見せ合いながら、動物のことや、その動物が英語でなんというかなどを教えあっていた。自分の国旗の色の意味や英語でなんというかを保育者に説明する姿もあった。フィリピンと南アフリカの国旗を見て詳細に答えていた。自分が描いたオリジナルの国旗の Show&Tell に初めて挑戦する。創造性に富んだ自分の国旗を相手に伝え褒めあう姿が見られた。地球儀を見ながら、上は寒い、下はあったかいなど友だち同士で教え合いながら、どこがいいか話し合っていた。乗り物は馬や船を選び、英語でなんというのか、質問する姿もあった。

ふりかえり（保育士の気づき）：

地球儀と世界地図上で様々な国を探すことを楽しんでいた。国の場所を探しながらその国の食べ物や伝統を伝えていくことで、他国への興味を広げていくようにした。他国の文化や食べ物に興味を持って話を聞く姿が見られたので、様々な国の文化や日本との違いなどを比べることで、興味更なるを広げていけるようにした。年年長児であるため国旗に対して色々な気づきがある。子どもたちの発する気づきを受けとめ、一緒に調べて答えていくようにした。

自分たちのオリジナル国旗作りに挑んだ際は、想像力を発揮してクラスの自分の旗づくりができるように子どもたちが主体的に考えられるようにした。子どもたちの作った国旗に動物シールを貼るという要素を加えて、想像力を刺激するようにした。

英語を使ってみたい、知りたいという気持ち呼び起こすことは、外国人講師と英語で会話することで、日本語以外の言語を話す喜びを実感できるようにした。地球儀と乗り物カードがあったことで、日本と他の国の距離感を感じ取ることができ、乗り物を選びながら乗り物の名前を英語で言うことを楽しんでいた。馬や船などでどうやっていくのか、馬の小さいのは英語でなんというのかなど、会話が広がっていた。

英語のリズムに親しみ、英語を身近に感じることで英語への障壁を取り除き、将来の国際人になるための礎を築けていると思う。



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都新宿区北新宿2丁目4-11
園名	アスク北新宿保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音の鳴る仕組み

<テーマの設定理由>

年長児が和太鼓に取り組んでいるという園の特色と乳児クラスの日頃から楽器遊びに親しみがある。そこから音の鳴る仕組みや音の変化などに、不思議さや気づきが生まれる活動がしたいと考えたため。

2. 活動スケジュール

- 11月から3月まで行い、月に1回音楽の講師を招致し楽器の演奏や歌声など本物に触れる機会を創出した。また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育士と音楽講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにする
- 11月オノマトベとは何なのかを知った。
- 12月オノマトベはどんな音があったかを話し合ったり、見つけたオノマトベを模造紙に書き出し、発表したりした。
- 1月量の違いによって変わる音の変化を知る。自らの設定を行うことで、主体的に音の違いの変化を感じられるようにする。量を長さに変換し、自分たちの手作りの糸電話で糸の長さや音の大きさがどう変わるのか実験した。
- 2月楽器ごとの特徴、種類ごとの名前を知り、それぞれの楽器はどの楽器の種類に当てはまるか考えた。楽器ごとの音の出方はどんな風に出るのか知り、知ったことを活かして自分たちで手作りで楽器を作った。
- 3月これまでの活動の中で学んだ「気鳴楽器」「体鳴楽器」「弦鳴楽器」「膜鳴楽器」がどのようななり方をし、どんな楽器が所属するのかを考えた。前回の活動で作成した楽器を発表し演奏した。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- 絵本「ガチャガチャ どんどん」(絵本の読み聞かせ)・表情のイラストカード(指定された表情の顔を選ぶ)・オノマトベのイラストカード(カードを見て音を付ける)・オノマトベのイラストカード(どんな音だったか振り返る)・歌「おつかいあいさん」「とけいのうた」「かえるのうた」「ぶんぶんぶん」(歌の中にオノマトベが入っているか探す)・身近な物ペットボトル、たわし、シリコンゼリーカップ、木の棒(好きな素材を使って歌に合わせて演奏した)
- 模造紙・ペン・ホワイトボード
- (互いに発表し合い、ペンを使って模造紙に記入した。その後、ホワイトボードに貼り、他クラスの前で内容を発表した。)
- 紙コップ(ビーズを入れて音を鳴らす)・木でできたビーズ(紙コップに入れて音を聞く)・木の棒(ゼリーが入った紙コップを叩く)・ゼリー(紙コップに入れて音を聞く)・紙コップ(糸電話作成の為)・アサヒも(糸電話作成の為)・ストームドラム、マラカス、鈴、手作り紙コップ、ストロー楽器(楽器種類当てゲームに使用)・楽器別一覧カード(楽器種類当てゲーム、楽器の特徴を知る際に使用)
- ピアノ(始めの歌の際に使用紙コップ、セロハンテープ、輪ゴム(手作り弦鳴る楽器作りに使用))ちぎった紙、カラーテープ(手作りマラカス作りに使用) 廃材、紙、カブラ(一人ひとりが自分で考えた手作り楽器作りに使用)・楽器の種類の名前が書かれているカード×4(楽器の種類の説明のため)リコーダー(楽器の種類の説明として)マラカス(楽器の種類の説明として)サウンドシェイプ(楽器の種類の説明として)ピアノ(講師の演奏のため)紙コップギター(紙コップ、輪ゴム)(楽器の種類の説明として)楽器が描かれたカード(仲間見つけゲームに使用)

【3歳児実施分】

問いを考える：

(11月)

絵本を読んで身近なオノマトベは何か問いかけた。雨や雷の音は体で表現するとどのようになるか問いかけ、保育者も一緒に表現して考えていった。

(12月)

オノマトベにはどんな音があった？前回オノマトベを探した後に探究活動時自分たちでみつけたオノマトベを発表しよう。目を隠して聞いた音は、どの身近な物を使って音を出したと感じたか問いかけた。身近な物を使ってカエルの音を探してみようと問いかけ、身近な物を使って音を探していった。

(1月)

紙コップにビーズを入れたり、ゼリーを入れたりして、ビーズの数によって音の違いはあるか、振ったらどんな音がするのか、棒で叩いてみたらどんな音がするのか問いかけた。

(2月)

・楽器ごとの特徴、種類ごとの名前を知り、それぞれの楽器はどの楽器の種類に当てはまるか、楽器ごとの音の出方はどんな風に出るのか考えた。

(3月)

今まで学んだ楽器の種類について振り返ってみよう。自分で作った楽器を発表しよう。

探究活動の様子：

(11月)

音を聞き分けて身体の動きを変えて表現することを楽しんでいた。表情のイラストカードを見ながら「にこにこ、ふんぶん」などの表情のイラストカードを選び取っていた。イラストの情景を思い浮かべながらオノマトベを考えて発表をすることが出来ていた。風の音、川の音、鳥の鳴き声、飛行機の音様々な音を探ることが出来た「葉っぱはどんな音がするかな？」等子どもたちが考えることが出来るように声かけを行った事で子どもたち自ら「カサカサ、サラサラ」等オノマトベを考え出すことが出来ていた。

(12月)

歌を聞いて、どんなオノマトベが見つけれられるかを講師と一緒に探すことを楽しんでいた。身近な物を使って歌に合わせて音を出すことを楽しみ、他児が演奏している時には大きな声で歌う姿が見られた。11月に戸外先で行ったオノマトベを思い出しながら取り組む姿が見られた。「他にどんな音があった？」と保育者から問いかけられると、「そういえば、こんな音もあった気がする」と思い出しながら話をする子がいる。「部屋の中でも音さがせるんじゃない？」とオノマトベ探しに興味を持って取り組む姿が見られた。意見を出し合う中で、「こっちはザクザクって聞こえたよ」など、自分にはどのように音が聞こえたかを互いに伝え合う姿が見られた。

(1月)

自分でビーズなどの量を決めることにより、音の違いに真剣に悩む姿勢が見られた。

自分の考えを講師に発表する姿が見られた。自分で発見したことにより、喜ぶ姿が見られた。音の出方を体に当てはめて実験してみることで、音を身近に感じる事が出来ていた。

(2月)

様々な楽器、楽器の種類に興味を持ち違いを覚えようと真剣に講師の話聞いていた。疑問に思ったことや感じたことを言葉にして投げかけていた。楽器の種類を当てられたときは時は喜び、より興味を持って知ろうとする姿がみられた。

(3月)

自分で作った楽器を説明、音をみんなの前で発表できることに喜びを感じていた。自分で作った楽器を演奏したことにより、達成感を感じていた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

(11月)

オノマトベに対する理由を添えながら音を言葉で答えることが出来ていたので今後も引き続き保育の中でも音のなる仕組みやオノマトベについて考える時間を設けていく。

(12月)

オノマトベとはどんなものかを歌や絵を使って伝えていくことで、子どもたちも内容について理解することができていた。日頃から、保育の中でオノマトベを見つけたら保育者から積極的に発信していき、更に興味・関心が持てるようにしていきたい。

(1月)

量の違いにより出る音の違いがどのようなものかを真剣に考える経験から、子ども同士でも意見を言い合ったり、考えあえることが出来ていた。また、この考えが生活の中でどんなものに使われているか、応用されているかを考えられるようにしていく。この経験をそのまま終わらせることなく次につなげていく。

(2月)

それぞれの楽器の特徴を知るために説明を真剣に聞く姿がみられた。答えに迷ったときは講師や保育者、友だちと相談して考える姿もみられ、話がしやすい環境作りを引き続きしていく。

(3月)

5回分のすくわく活動で学んできたことを振り返ることにより、楽器の種類の違いをしっかりと認識することができていた。今まで触れたことのない楽器にも興味湧き分類してみたい気持ちがあった。来年度も音楽に興味を持てるよう、これで終わりではなく、次に繋げていく。

【4歳児実施分】

問いを考える：

(11月)

- ・雨の音、雷の音を動きや音で表現してみよう。・身近なオノマトベについて考えてみよう。
- ・身の回りにはどんなオノマトベがあるのか探しに行こう

(12月)

- ・オノマトベってなんだっけ？・歌にもオノマトベは入っているかな？
- ・散歩でどんな音を見つけたかな？・身近な物を使ってカエルの音を探してみよう

(1月)

- ・音の違いを調べてみよう。・ビーズをどのくらい入れてみる？・ふったらどんな音がする？・音の違いはあるかな？
- ・棒でたたいたらどんな音がする？

(2月)

・楽器ごとの特徴、種類ごとの名前を知ろう・それぞれの楽器はどの楽器の種類に当てはまる？・楽器ごとの音の出方はどんな風に出るのか？・手作りで楽器を作ってみよう

(3月)

今まで学んだ楽器の種類について振り返ってみよう。仲間見つけゲーム、楽器のイラストが描かれたカードで同じ仲間のカードを探してみよう。

探究活動の様子：

(11月)

- ・音を聞きながら自分なりに表現をすることが出来ていた。
- ・イラストの情景を思い浮かべながらオノマトベを考えて発表をすることが出来ていた。
- ・保育者の声掛けの元オノマトベを探ることが出来ていた。・風の声、川の声、鳥の鳴き声、飛行機の様々な音を探ることが出来た。
- ・ビンゴシートのイラストを見ながら音を探していった。

(12月)

- ・戸外先で見つけた音を講師に話す様子が見られた。・オノマトベについて理解し、歌の中にオノマトベを見つけると喜ぶ姿が見られた。
- ・身近な物を使い、それぞれ好きな組み合わせで音を鳴らしている。叩き方による音の違いを考えて色々な演奏の仕方に挑戦している。

(1月)

- ・自分でビーズなどの量を決めることにより、音の違いに真剣に悩む姿勢が見られた。・自分の考えを講師に発表する姿が見られた。
- ・自分で発見したことにより、喜ぶ姿が見られた。

(2月)

・様々な楽器、楽器の種類に興味を持ち違いを覚えようと真剣に講師の話聞いていた。・疑問に思ったことや感じたことを言葉にして投げかけていた。・楽器の種類を当てられた時は喜び、より興味を持って知ろうとする姿がみられた。

(3月)

違う楽器でも同じ楽器の種類があり、音の鳴り方を自分で考え想像する姿が見られた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

(11月)

- ・情景を言葉にして伝えることが出来ていたため今後もオノマトベや音のなる仕組みに親しみもてるようにする。
- ・保育者の声掛けで日常や街中でオノマトベを探しオノマトベに気付くことが出来ていた。・自らオノマトベに気付く子どももいた。

(12月)

・オノマトベビンゴを使用して、戸外散歩にでかけた経験から、音を探することに意欲が見られたため、今後も日々の活動の中で子どもたちと一緒にオノマトベ探しを継続していきたい。

(1月)

・量の違いにより出る音の違いがどのようなものかを真剣に考える経験から、子ども同士でも意見を出し合い、考えあえることが出来ていた。また、この考えが生活の中でどんなものに使われているか、応用されているかを考えられるようにしていく。この経験をそのまま終わらせることなく次につなげていく。

(2月)

・それぞれの楽器の特徴を知るために説明を真剣に聞く姿がみられた。答えに迷ったときは講師や保育者、友だちと相談して考える姿もみられている。引き続き話し合いがしやすい環境作りをしていく。

(3月)

5回分のすくわく活動で学んできたことを振り返ることにより、楽器の種類の違いをしっかりと認識することができていた。今まで触れたことのない楽器にも興味湧き分類してみたい気持ちがあった。来年度も音楽に興味を持てるよう、これで終わりではなく、次に繋げていく。

【5歳児実施分】

問いを考える：

(11月)

- ・雨の音、雷の音を動きや音で表現してみよう。・身近なオノマトベについて考えてみよう。

(12月)

- ・オノマトベってなんだっけ？・歌にもオノマトベは入っているかな？・散歩でどんな音を見つけたかな？
- ・目を隠して聞いた音は、どの身近な物を使って音を出したかな？

(1月)

- ・音の違いを調べてみよう。・ビーズをどのくらい入れてみる？・ふったらどんな音がする？・音の違いはあるかな？
- ・棒でたたいたらどんな音がする？

(2月)

- ・楽器ごとの特徴、種類ごとの名前を知ろう・それぞれの楽器はどの楽器の種類に当てはまる？・楽器ごとの音の出方はどんな風に出るのか？
- ・手作りで楽器を作ってみよう

(3月) 今まで学んだ楽器の種類について振り返ってみよう。自分で作った楽器を発表しよう。

探究活動の様子：

(11月)

- ・ピアノの音に合わせて動きや音を考えて表現することを楽しんだ。
- ・イラストカードをランダムに選び、イラストに合ったオノマトベを考えた。オノマトベに対する理由を添えながらこたえることができた。

(12月)

- ・歌を聞いて、どんなオノマトベが見つけれられるかを講師と一緒に探すことを楽しんでいた。
- ・身近な物を使って歌に合わせて音を出すことを楽しみ、他児が演奏している時には大きな声で歌う姿が見られた。

(1月)

- ・自分でビーズなどの量を決めることにより、音の違いに真剣に悩む姿勢が見られた。・自分の考えを講師に発表する姿が見られた。
- ・自分で発見したことにより、喜ぶ姿が見られた。・音の出方を体に当てはめて実験してみることで音を身近に感じるようになっていた。

(2月)

- ・楽器の種類別のそれぞれの特徴を、講師の話の聞いたり実際に楽器を見たりして掴むことが出来ていた。少し迷ってしまったときは友だち同士で相談し、答えを出している姿も多く見られた。
- ・楽器の種類を当てられた時は喜び、自信に繋がっている姿がみられた。

(3月)

- ・自分で作った楽器を説明、音をみんなの前で発表できることに喜びを感じていた。
- ・自分で作った楽器を演奏したことにより、達成感を感じていた。自分で作った楽器を説明、音をみんなの前で発表できることに喜びを感じていた。自分で作った楽器を演奏したことにより、達成感を感じていた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

(11月)

- ・オノマトベに対する理由を添えながら音を言葉で答えることが出来ていたので今後も引き続き保育の中でも音のなる仕組みやオノマトベについて考える時間を設けていく。

(12月)

- ・オノマトベとはどんなものかを歌や絵を使って伝えていくことで、子どもたちも内容について理解することができていた。日頃から、保育の中でオノマトベを見つけたら保育者から積極的に発信していき、更に興味・関心が持てるようにしていきたい。

(1月)

- ・量の違いにより出る音の違いがどのようなものかを真剣に考える経験から、この考えが生活の中でどんなものに使われているか、応用されているかを自分から考えられるようにしていく。

(2月)

- ・それぞれの楽器の特徴を知るために説明を真剣に聞く姿がみられた。答えに迷ったときは講師や保育者、友だちと相談して考える姿もみられ、話がしやすい環境作りを引き続きしていく。

(3月)

- 5回分のすくわく活動で学んできたことを振り返ることにより、楽器の種類の特徴をしっかりと認識することができていた。今まで触れたことのない楽器にも興味湧き分類してみたい気持ちがあった。来年度も音楽に興味を持てるよう、これで終わりではなく、次に繋げていく



少人数グループで楽器を作りました。廃材や紙皿を使い、楽器を作りました。ほかで楽器を作った友だちの作品を見て「こんなアイデアがあったんだ!」「この楽器の種類はなんだろう?」と盛り上がっていました!



太鼓を作った友だちの作品をみて「これは膜が張ってるから、何楽器だっけ?」「膜鳴楽器かな?」と楽器の種類を当てるゲームを楽しんでいました。



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都新宿区北新宿 2-4-11
園名	アスク北新宿保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

できるを探そう

<テーマの設定理由>

子どもたちがそれぞれの得意なことを見つけて、活動を通して意欲的に伸ばせるようにこのテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

11～12月…記録の測定(6項目)→自分のできるの分析／他者比較探究
1月…項目を伸ばすための活動
2～3月…2回目の測定→自分のできるの分析／他者比較探究

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・記録用紙…子どもたちの記録を記入し、自分の記録を比較できるように使用。
- ・綱…引く力の測定や綱引きに使用。
- ・○シート…かけっこやバランス力などで位置が分かるように使用。
- ・タイマー…計測のために使用
- ・ホワイトボード・模造紙…子どもたちの考えをまとめて、可視化できるように使用。

3. 探究活動の実践

【4歳児実施分】

問を考える：バランス力、引く力、押す力、柔軟、走力、ジャンプ力の中から子どもたち自身が伸ばしたいことを見つけることが出来るように出来たことを褒め、「どんな力をつけたい?」「どんなことが出来るようになりたい?」と声をかけていった。また、その力を伸ばすために「どんな遊びをしたらいいかな?」と声を掛けて子どもたちからの考えを引き出していき、実践することで活動に連続性が生まれるようにした。

探究活動の様子：バランス力、引く力、押す力、柔軟の測定を行い、どの力を伸ばしたいか個別に問いかけながら進めていった。最初は子どもたちそれぞれで意見が分かれたが、回数を重ねるごとにバランス力と引く力を伸ばしたという子に絞られ、意見がまとまった。

バランス力の測定を行った際には、「バランスの測定が楽しい!」「もっとやりたい!」と発言する姿が多く見られるようになった。バランス力は、体操の時間だけでなく日々の活動の中でも継続して行い測定していった。腹部に力を入れると長くバランスを保つことが出来ることを体操講師に教えてもらおうと、さらに意欲的になり腹部に力を入れることを意識して取り組む姿が見られた。記録が伸びると友だちと比べて楽しむ姿が見られた。

引く力では、鉄棒を用いて「鉄棒のどのような技で引く力が伸びるのか?」という問いをあげて活動に取り組んだ。「コアラのポーズ」「逆上がり」「ぶらさがる」など様々な意見があがり、実際に子どもたちと様々な技をやってみた。子どもたちの意見をもとにして活動することで子どもたちが主体となり積極的に取り組む姿が印象に残った。また、友だちが取り組む様子を見る時間を作ったことで、「どうしてあの子は上手なのかな?」「真似して僕もやってみよう!」と自分で様々なことに気付いて取り組んだり、友だちにアドバイスをしたりする姿が見られるようになった。

ふりかえり(保育士の気づき)：少人数で活動に取り組むことで視点が焦点化され、子どもの姿をより丁寧にみる事が出来、一人ひとりの子どもの動きによる違いがあることや、子どもの動きが変化していく様子を捉えることが出来た。また、探求活動を継続して行うことで、「次はこんなことをしてみたいね!」「もう一回やってみたいね!」などと声があがり、子どもたちの意欲が高まっていくのを感じた。

今回の活動を通して保育者は子どもが取り組んでみたいと思う環境を作り、取り組んで楽しかったという充実感や満足感を味わうことが出来るようにし、継続的に取り組んでいくことが重要だとわかった。

【5歳児実施分】

問を考える：子どもたちに記録用紙をもとに比較したり、気付いたりできるように働きかけていった。「どうしたらその力を伸ばせるか？」という問いに対し、遊びを考えて、実際に行ってみた。その中で、「どうしたら強くできるか？」「ゲームに勝つためにはどうしたらいいか？」など細分化していきながら、考えていくことができた。自分がやっている様子を相手に見てもらうことで問いについて考える姿も見ることができた。

探究活動の様子：体操講師からのアドバイスを基に行っていき、そこから子どもたちが出した意見を踏まえて探究活動を広げていった。どの力を伸ばしたいかについては、最初は子どもたちそれぞれで分かれたが、活動で綱引きを行ったことが、引く力を伸ばしたいと全員が強く思うきっかけになった。綱引きでどのようにしたら、引く力が強くなるか、どうしたら相手に勝てるかをみんなで考えて実践を行った。綱引き自体に馴染みがない様子が見られたが、綱引きの動画を見せることでイメージが膨らみ、考えも広がっていった。実際に出た意見を踏まえて綱引きを行う中で、子どもたち自身で友だちがやっている様子に気づき、アドバイスする姿が増えていく様子が見られた。子どもたち自身で展開していくことはまだ難しいが、友だちからの意見を聞き、それを取り入れようとする姿が増えていったことはよかった。また、気づいたことを実践することで、「強く引けた！」と効果を感じる姿も見られた。

最終回の「どうして力が伸びたか」という問いに対しては、今までに行った動きや遊びの中から意識したことを思い出して考えようとする姿が見られた。「力を入れたから遠くにジャンプができた」など考えと結果を結び付ける姿が見られた。

ふりかえり(保育士の気づき)：力を伸ばす遊びを考える際に、遊びが思いつかない姿が見られたため、普段から様々な遊びを取り入れて行っていくことが大切だと考えた。子どもたちから出た意見をさらに広げられるような声掛けも大切だと考えた。2回目の測定を行い、力が伸びたことを実感できたため、他の力にも繋がっていることを伝えていくことで、より意欲的に慣れるのではないかと感じた。

回を重ねることに子どもたちが意欲的になり、「もっとやりたい！」という姿が見られたため、繰り返し行う中での発見や伸びを大切にしていきたいと考えた。

【3歳児実施分】

問を考える：ジャンプ力、バランス力、引く力、押す力、走る力、柔軟力のそれぞれの記録の違いや出来るようになったことを褒めながら「どうしたら遠くにとぶことができるか?」「どうしたら長く片足立ちが出来るか?」どのようにしたら速く走ることができるか?」などの言葉をかけていった。

また、それぞれの力を伸ばすために「どんな遊びをしたら伸びるのか?」の言葉をかけて子どもたちの発想や意見を取り入れ、実践できるようにした。

探究活動の様子：ジャンプ力、走る力それぞれの力をどのようにしたらいいかみんなで一緒に考える時間をつくり、一人ひとりアイデアを出していった。一人のアイデアからどんどん広がっていった。

ジャンプ力では、カエルやウサギなどのジャンプする動物になりきって、高くジャンプする姿が見られた。思いついたことを実際に体で表現していて、そこから様々な連想が広がっていた。講師の方から高く跳ぶコツを教えてもらおうと、他児がどのような動きをしているかも見ながら実践する姿が見られた。

走る力では、運動会というワードから連想して“リレー”から走る力をつけていった。リレーでは、他児の様子を見て真似をしながら言葉を掛け合っている様子が見られた。チーム対抗ということで、「なんであの子は速く走れるのだろうか?」「負けたくない!」という競争心を持ちながら、速く走れるコツを自分で考えたり講師の方に教えてもらったりして取り組んでいる姿が見られた。友だちの姿を見て、真似をしようとしたり応援したりすることもあった。

ふりかえり(保育士の気づき)：結果が個別で分かることで子どもたちの意欲が見られ、新しい取り組みに興味を持つ姿があることで、保育者自身も一人ひとりの強みを把握しながら次にどう活かしていけるのか考えることができた。また、探究活動の中でそれぞれの考えを共有したことで、アイデアは違えど最終的には全員で一つのことをやっていくという意欲的な姿があると感じた。

今回の活動を通して2人ずつ行うことで、客観視して自分も「やりたい!」「がんばる!」という気持ちになって取り組む姿が見られたのでよかった。保育の中でも取り入れられるのは取り入れていきたい。

